

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用 標置	感染症(PT)	出典	概要
												A型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 356-365	1997-2005年に、デンマーク、ドイツ、オランダ、ノルウェー、スペイン、スウェーデンおよび英国で、男性同性愛者にA型肝炎が大流行した。このA型肝炎アウトブレイクに関連する株の遺伝子学的関連性を調べたところ、これらの国の男性同性愛者から得られた株の大部分はMSM1と名づけられた遺伝子型IAIに属する近縁のクラスターを形成していた。同期間に他のリスク群では見なかったHAV株が流行していたことから、特異的な株がヨーロッパの男性同性愛者間では流行していたことを示す。
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1197-1205	日本赤十字血液センターに保管されている1997-2004年の反復献血者の全供血の調査を行い、ID-NATのみHBV陽性である血液由来の血液製剤の輸血によるHBV伝播リスクを検討した。HBV ID-NATを実施したHBV転換献血者の保管血液15,721本中158検体(1.01%)が陽性であった。スクリーニングをすり抜けたHBc抗体価の低いオカルトHBVキャリア由来の血液製剤を原因とするHBV感染リスクは、HBsAg発現前やMP-NATウインドウ期の献血による伝播リスクよりも10倍以上低い。
												B型肝炎	Transfusion 2007; 47: 1162-1171	日本赤十字のスクリーニングシステムでHBsAg及び抗B型肝炎コア抗原抗体が陰性であったHBV DNA陽性献血者26名において急性HBV感染におけるウイルスマーカーの動態を調べた。検出可能期間の中央値は、HBV DNAが個別NATで74日、MP NATで50日、HBsAgが42日であった。26名中6名は変異型ウイルスに感染し、うち3名ではHBsAgが検出できなかった。HBV NATは、MPで行ったとしても、HBsAg検査よりも効果的で、HBsAgウインドウ期前後の感染献血者を排除することができる。
												E型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 734-742	日本におけるアラニアミノトランスフェラーゼ(ALT)高値献血者の無症候性E型肝炎感染の現状を調べた。日本赤十字血液センターでALT高値(61-476 IU/L)の献血者6700名の血清検体を検査したところ、479名(7.1%)の献血者が抗HEV IgG陽性であった。ALT $\geq$ 201 IU/L群はHEV RNA有病率が有意に高かった。ウイルス血症を発症した献血者9名から得られたHEV分離ウイルスは遺伝子型3に分類された。ALT $\geq$ 201 IU/Lの日本人の約3%はHEV株の無症候性感染を有することが示された。